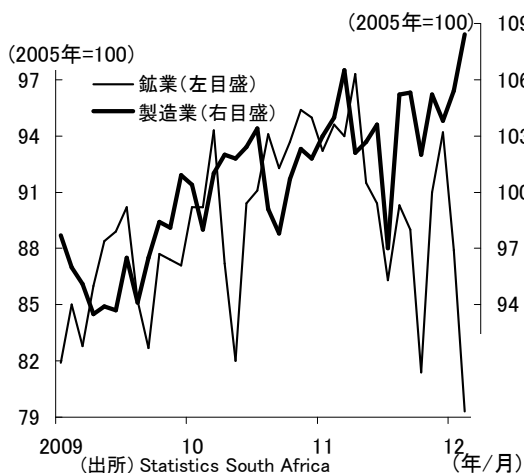




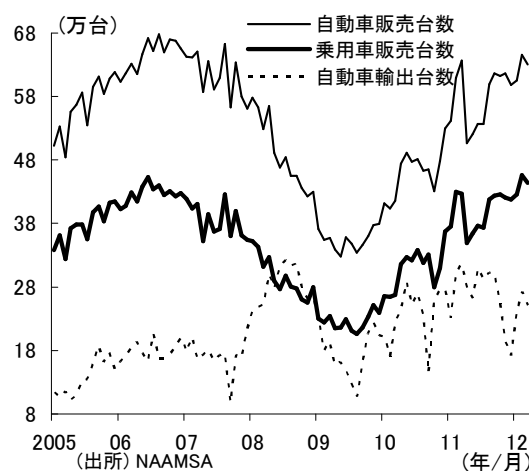
年初来、南ア経済再拡大へ ～ 耐久財消費や住宅需要に動意 ～

- (1) 南ア経済は昨年、次第に翳り。10～12月期は前年比2.6%成長に鈍化。前期比でみると、4～6月期以降、3期連続0.5%前後の低成長。しかし本年に入り再び着実な成長軌道へ復帰の兆し(図表1)。銅やプラチナ、ニッケルをはじめ鉱業生産は依然減勢ながら、製造業は昨年入り後の一進一退から増勢回復へ。分野別にみると、自動車を中心とする輸送用機器、あるいは窯業土石や鉄鋼、家具が昨年末以降、好調。好調分野を概観すると次の通り。
- (2) まず自動車販売では昨年、大幅な増減(図表2)。しかし昨秋、減勢を脱し、本年入り後、増勢回復。とりわけ乗用車販売台数は本年2月、季調済年率ベースで45.6万台に。2006年6月の同45.3万台を凌駕し既往最多を更新。商業用車両を含めた自動車全体で本年2月は同65万台に達し過去最多水準に。なお輸出台数は、国内販売が好調を取り戻すなか頭打ちに。
- (3) 一方、窯業土石や鉄鋼、家具生産増加という現況から建設動向をみると、住宅着工やリフォーム需要が再び盛り上がりへ(図表3)。新築住宅は09年末以降の一進一退での推移から本年に入り、増勢回復の兆し。一方、リフォーム需要は、期毎の変動が大きいものの、10年7～9月期をボトムに10年末以降、緩やかに増加。もっとも非住宅分野では新規投資の動きは低調。
- (4) 企業セクターでなく、個人セクター主導で回復再始動。所得雇用環境をみると、雇用情勢が10年春以降、着実に改善するなか、所得環境は11年4～6月期、一時的に悪化したものの、総じてみればリーマン・ショックの反動による09年の急増が10年初に終わった後も、10年半ば以降、底堅い増勢を持続(図表4)。加えて輸出競争力を殺いできたランド高が昨秋来、修正。今後、輸出増が視野。さらに昨年半ば以降、外資流入が再び盛り上がり。本年、同国経済は再び3～4%成長軌道へ。

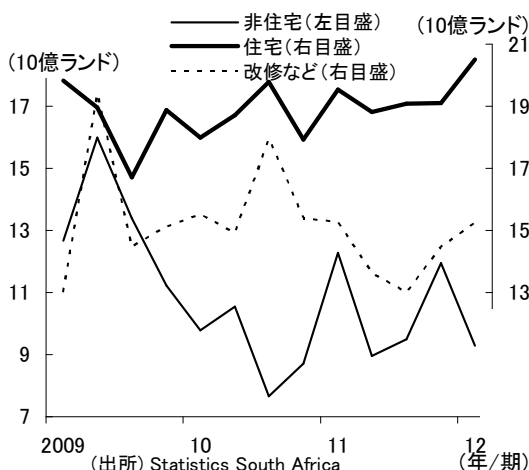
(図表1) 南アフリカの鉱業・製造業生産(季調済)



(図表2) 自動車販売・輸出台数(季調済年率)



(図表3) 建築着工許可金額(季調済)



(図表4) 非農業雇用者数と名目・実質賃金(季調済)

